**絵と文で楽しく学ぶ　大人と子どもの現象学　　読後感　抜粋**

**皆様から頂いた読後感の１部を転記させて頂きました（西川尚武）。**

**以下は、西川さまご承認を得て、西川さまのホームページを転写し、全体の長さと読後感の多種多様性を配慮して、取捨選択させていただいて、ここに原文のまま、ご覧に供するものです。各読後感の内容には手を入れてはおりません。順不同です。（吉田章宏）**

**＃1　大変興味深く一気に読みました。難しい現象学を易しく解説した内容は稀にみる素晴らしい入門書だと思いました。また貴兄のイラストも心暖まるものでした。サブタイトルにあるように絵と文で楽しく学びました。（wさま）**

**＃２　難解なんじゃないかなと読み進みました。今迄の人生で解っていたつもりの相手の立場・逆転の心理・見方等など文字を通し学問として知り得たことにビックリこれからの生活に心して暮らさねばと思いつつ「現生楽」の文字に辿りつき一気に解放されました。保育にたづさわる長女に勧めます。本の贈呈を受けた方はきっと負担に思います。従って　皆さんへの本の贈呈は有難迷惑になるかも知れませんよ。私は友人に図書館で　この本＝「絵と文で楽しく学ぶ　大人と子どもの現象学」を新刊予約して下さいと頼んでいます。この運動を全国の図書館に広げられると良いですね。　　（aさま）**

**＃４　物事を見る角度によっていろいろな現象や思いなど、漢字には仮名がふってあり昔からのことわざなども面白くて意外と分かりやすい説明でした。言葉の綾とか視点論点は智慧の輪のように思います。良くも悪くも考える人次第と思いますが人生を楽しく過ごすには良い現象を見ることなのでしょうね。私自身はそのように感じました。 (yさま）
＃５　現象学の本　ボケ防止の積りで読んでみます。（nさま）**

**＃６　自分の立場から見える事だけを「真」とし、他を「誤」と決め付けると、他民族を殺したり偶像を破壊するイスラム圏の様になってしまう。そういう昨今の現実を見ていると、貴兄が言う「現象学は民主主義を深めるものですね」という言葉が重く心に響いてきます。 （Ｙさま）**

**＃８　わたしは、現象学に書かれているようなことを、知らず知らずに日常生活で実行しているつもりです。だから、全く違和感はなく、むしろ、同感しながら読み終えました。現象学で述べられていることを、世界中の児童教育に取り入れられていたら、現在世界中で、また、日本内部で起こっている紛争や対立が軽減されたのではないかと愚考しています。特に、世界の為政者に現象学を学ばせる必要を痛感します。（ｋさま）
＃9　この本が文部省の推薦図書にでもなって、多くの小・中学校の先生や保護者の方々に読んでもらえたら、大変意義があるものと思います。人生を生きるうえで哲学の大切さを痛感している私ですが、現象学するうえでは、豊富な知識や経験、発想、思考といった多くの要素が不可欠ではないかと思います。蛇足ながら大変失礼を承知で言わせて頂きます。子どもに優しく語りかけるスタイルの本にしては、なかなか含蓄あるもの大人の匂いがする求道愚童の句（？）は本番にはそぐわない気がしました。（Ｎさま）**

**＃１０　本を読みながら、これまでの会社生活での出来事において、多くの人と接しましたが小職の立場の見方だけで、相手を含む周囲の立場の思い、考えをどれだけ考慮して、対処したかと反省をしております。　良かったことは、JTCC(日本繊維技術士センター）に入会し、異業種の皆様と接し、色んな方のお話し、見方を広げられたことは、今も、リフレッシュの源と思い、感謝しております。　西川様の書籍に画かれた絵も、恐らく、これまでの世界遺産訪問など多くの蓄積を基に、色々と想像され、書籍の絵の表現になっているのでは思っております。（nさま）**

**＃１２　大人と子どもが一緒に読める本ですので、とにかく楽しく分かりやすかったです。　「現象学」とは何かということを、考えたこともありませんでしたので、良い勉強になりました。　貴兄の絵もほのぼのとして、文章の調子ともマッチして、子供には特に読みやすさと楽しい　気持ちで読める本になっていると思います。　かなり低年齢の子も読めるように、総ての漢字にふり仮名が付けてありましたが、何歳くらいからの読者を想定されたのでしょうね。内容的に、かなり小さな子でも理解できるところと、ある程度の年齢（ふり仮名無しで読める）以上でないと難しいところが混じっていると思いましたので、総ての漢字にふり仮名を付すと、紙面が少しごちゃごちゃした感じがあり、その良し　悪しが難しいと感じました。　私にも孫が有り、近くに居れば、すぐにも読ませるのですが、大阪（息子）と筑波（娘）ですので、　娘の方の孫（中3と小6）に送って、感想を聴こうと思っています。　とにかく大変良い本で、多くの大人と子どもが読んでくれる良いですね。　吉田先生と西川さんのご労苦に敬意を表します。（kさま）**

**＃１５「現象学を学ぶには、まずこれだけは理解しておけ」と、要点のみを繰り返し説明されており、まことに見事な、よく工夫された解説だと思いました。これを読んでから百科事典を読めばもう少し良く判ったかと思いました。今後、現象学を学ぶ大人や子どもには大変有効な手引きになると考えます。「立場を変えると、いろいろ別な姿・かたちが見える」ということは、貴重な教訓でした。貴兄のイラストは豊富に掲載されており、この本を読みやすく、親しみやすくし、また理解するのに大いに役立っていると思いました。 (Kさま）**

**＃18「大人と子どもの現象學」昨日図書館から借り出してきました。僕が第１号です。つまり、こちらの申請で市が予算を割いて新たに購入した事を物語ります。先ずは、西川さんの呼びかけにお答え出来たと安堵しております。成る程、これなら、少し出来の良い子どもならすらすらと読み解くに違いありません。哲学の一つのアプローチであると思慮しますが、取っつきにくい現象学を、出来るだけ分かりやすく平易にまとめておられると思慮します。Philosophy（愛知-love of wisdom）なる学問ですから、現象学が難解なのは止むを得ません。（k様）**

**（西川さまのまとめ）　本を手にした友人達から読後感を何通も頂いた。読後感は、早速自分のホームページにも載せ続けている。「ボケ防止の為に読んでみた。現象学など今まで聞いたことも無かった。開いてみたら、哲学だと知ってビックリした。全文振り仮名が付けられていて、これなら子どもでも読めるね。読み始めると意外に身近なことを判り易く書いてあるのでビックリした。挿絵も素直で好感がもてる。要するに、物の観方として、自分の立場を離れ、他人の立場に立って、見つめなおせば、きっと新しい考え方が開けてくると著者は言っている。現象学とは易しく言えばこういうことなのかね。「いじめ問題」や「お化け煙突」の話しなども出てきてなかなか面白いじゃないか。これなら孫たちにもぜひ読ませてやりたいよ。」皆さんから頂いた読後感を要約すると大体こんなことになります。**

**貴方はこの本を開いて主人公が先ず魔法の衣装を着せらて、洞窟の中に進入していくところからビックリされたでしょう。これが現象学の根本という現象学的還元を意味していることを気付かれましたか。そして突然、金子みすずさんの詩、「昼のお星は目に見えぬ。見えぬけれどもあるんだよ。見えぬものでもあるんだよ」。続いて、サン・テクジュベリの星の王子様の言葉、「心で見なくちゃものごとは良く見えないってことさ。かんじんなことは、目に見えないんだよ」。これらの心に響く言葉に始まって、現象学って一体何と？と読者は誘われていきます。著者のDr吉田はこの本を是非これから成長していく少年少女に読んで頂きたいと切望しています。少年少女から寄せられる読後感にはいつも真剣になって、何度も読み返し感動しておられます。 私は、この本の発行をお手伝いして　あらためて現象学のエッセンスに迫り　Dr吉田の「絵と文で楽しく学ぶ大人と子どもの現象学」こそ、誰にも現象学とはどういうものか判り易く、大変面白く書かれていることを再認識し、著者の現象学的心理学者としての　学問的探求の鋭さに深く敬意を表しています。著者は常に申しております。自分は教育心理学者として、本も書いてきたし、研究もしてきた。しかし、心理学をどこまで学んでも「人間」は掴めないと苦しんでいた頃、偶然ある機会に神谷美恵子さまの「生きがいについて」を読み、この本には「人間」が書かれていると知り　４０歳の自分は大きな衝撃を受けた。私はいつもDr吉田に質問します。「現象学って、フッサールが主張した観念論でしょう。観念論は世の中をいろいろと解釈はしたが、マルクスは墓銘碑でも否定していますね？」。　Dr吉田は、「私は現象学的心理学者であって、現象学的哲学者ではありません。しかし唯物論と観念論は、どうしてそんなに対立するのでしょうか。　（ ２０１５年　6月　6日　西川尚武が書きました）**

**＃２１　読後感　（書評　　へ０へ）
○　「目から鱗が落ちる」諺が有りますが、７０余歳で初めてお目にかかる本でした。小生は「愛知と学問」から少し隙間のある歩みだったのかな！？・・・の想いです。○　タイトル通り”大人と子ども”の為に、懇切丁寧に理解しやすい話言葉調の表現で小学校高学年の一家に一冊のバイブルとして利用されると良いですネ。○　おしまいの章「現象学は幸せになるための学問」、おまけの章「君の本当の旅の始まりに贈る言葉」は圧巻です。○中学生の公民社会（有るのかな？）のサブ教科書として文部省に採諾を希望です。（スマフォ・映像文明等々の華やかし、一方通行、見流し受身傾向の強い現今、また１８歳の選挙権云々の時に・・・・・身近な事例で常識・良識・知性・感性を磨く啓蒙書　○　段落ごとの”求道愚童”翁の纏めの短文が含蓄あり、至言　○　最終章の「ありがとう」は、神様、仏様（著者）の境地の渾身作！を窺い知る　○　表紙（装丁）：地球が雲でファージーに覆われ、人類のまだまだ努めなければならない事の多くを現しているのでしょうか・・・、好奇心を持ち未知に誘われる感じです。○　イラスト：内容を夢、好奇心、ユーモアをもって解りやすくシンプルで最初からカラー刷りで始まるのが前述の諸点により一層興味を増幅し拍車をかけ読み進ませる　○　イラストの後に、「はじめに」が格調高い内容の短文で完結し、より一層コンビネーションの良さが際たつ　○　文字の大きさ・全漢字のルビふり・節毎が数字ではなく　★　・　紙質等々、子ども～大人の皆さんへ読み通してほしい著者と編集者の強い願望とやさしい配慮を感じます。　○　イラスト担当の西川尚武氏が世界のアチコチを周られたり、自己の人生の足跡などから著者に劣らぬ滲み出る作画を感じます（ホームページを拝見して・・・）　○　懇意にしている知人に紹介したり、その子どもさん、お孫さんに良きタイミングにプレゼントをしたいと思います。素晴らしい本を紹介戴き有難うございました。　（Ｍさま）
＃２２　「絵と文で楽しく学ぶ　大人と子どもの現象学　」感想
過日標題の本をご紹介頂き有難う御座いました。早速　高島屋　11階　三省堂にて取り寄せました。この度、私の入院、自宅療養で見舞いに訪れた６人の孫と読み廻しをし、孫たちの感想もお送りします**

**１：刈谷高校３年の娘の子ども：今までにお祖父さんより提供のあった本の中で一番興味を感じた。現象学が自分にとって身近で切実な問題に迫る学問と感じた。
２：海陽学園中学２年（息子のこども）　面白い・心の内面から幸せを感じることが出来た。　（　本人の希望で　この本を贈呈することにした。　）
３：金城1年（娘の子ども）　挿絵が素晴らしい、4p・6ｐ・７ｐ・９ｐ・１２ｐ・１６ｐ他　　この為に　本文が楽しく読むことが出来た。
最後に祖父である私の感想：　大人から子どもまで楽しく学び、現象学とは物事の本質に迫る　素晴らしい学問で素晴らしい挿絵と　面白く判り易い本文で（仮名添付も素晴らしい）３代（私たち、息子娘たち、孫たち）にわたり、心の内面から幸せを感じ取れる機会を提供戴いた素晴らしい読本です。有難う御座いました。（Hさま）
＃２３　現象学とは、ごく普通の日常生活を過ごす上での物の考え方である事に気付かされました。物事は一方向からだけではなく、色々な見方が出来る。色々な風に見えるという事を、当たり前なのだけれど、学ばせて頂きました。最後まで諦めずに読み進むことが出来たのは、貴殿のユーモアある絵・カットがあったからでした。吉田先生が　”ぼくがいじめられていたときは”は興味深く読みました。また先生が現象学に導かれたキッカケとなった「神谷美恵子さんの生きがいについて」を私も読んでみたいと思いました。　　（Aさま）**
**＃２４　『大人と子どもの現象學』ありがとうございました。久しぶりにあらためて現象学に向き合う機会をあたえられました。これがどこまで「子ども」向けかは正直疑問に思いましたが、面白い現象学の入門書になっていると思います。（ｋ先生からのメール）**

**＃２６　連休前に御本を買わせて頂きました。丸善で頼みましたら児童書とか言われ、一瞬ハッとしましたけどとても読みやすく、特に挿絵が楽しみな１ｐ、１ｐでした。目新しい事ばかり・・・偉そうな事を言わせて頂けば、珍しいお話の中で妙に「そうだ、そうだ」と納得したり・・・千住のお化けエントツは懐かしい！！よく友人とアーダコーダと言いました。潮干狩には両国集合で幕張あたりに行きましたものね。著者の吉田先生も東京のお生まれ、そうそう私より２年下だと都立１中が日比谷高校になったのでしたね。いろいろと懐かしく思い出します。「現象学」というお言葉も始めて聞かせて頂いたわけでしたが・・・気安く楽しく読ませて頂き、スケッチなどもゆっくり見せて頂き有難うございました。　　（Ｙさま）
＃２７　「現象学」の図書、読み終えました。正に、人間学だと感じました・・・人間学の定義は小生独自の感覚です・・・（強いて言えば、どうしても解明できないのが人間の存在・思考・ｅｔｃ）
巻末の「ありがとう」を拝読させて頂き、著者（吉田さん）のお考えを少しは理解できたように思います・・・(iさま）
＃２８　刈谷のどこの本屋に出かけてもこの本は見つけられず、１週間ほど前に、名古屋の丸善でやっと購入することが出来ました。先ず、著者の幅広い豊かな知見に驚かされました。小生にとって身近な宗洞宗の先達たちの教えも良くご存知で、哲学者は宗教にも深く通じてみえるのだなあと感心しています。私は引退後、子どもたちを育成する発明クラブに長くお世話になりましたが、そこで発行している機関紙には、子どもたちを啓発する知能トレーニング問題を連載していましたが、丁度そこで掲載していた問題と同じ出題がこの本にも沢山載っていて、びっくりしました。この連載を書いていたのは私で、私の筆名は偶然にも求道求童でした。（Sさま）**

**＃３０　母「ハルマ君（３歳）、お星様は、夜は輝いているけど、昼はないよね。お星様って、なくなっちゃったのかな？」息子「なくなってないよ。あるんだよ。」母「でも昼、見えないじゃん。なんで見えないの？」息子「あるんだけど、水色の空の後ろに隠れてるんだよ。だから見えないんだよ。夜になると、そこから出てくるんだよ」そんなやりとりをしたそうです（Oさま）。**

**それから、（以下は、）私の拙い感想です。最後まで読み終わった瞬間、「これは、臨床のバイブルだ」と思いました。例えば、41頁の「地球は・・・・近すぎて、全体は見えない」という箇所。患者さんに心理検査をしたとき、あるいは、カウンセリングをしたとき、患者さんとの距離が近くなって、患者さんのことが見えなくなってしまうことが多々あります。一緒に働く先生方に話をする中で指摘され、初めて気づくのです。それは、私に力がないことはもちろんあるのですが、ベテランの先生方にも起こるんです。そのことをこの箇所を読みながら思いました。**

**137頁の「おまけの章　君の本当の旅の始まりに贈る言葉」は、圧巻でした。私は、現象学と臨床をどうつなげることができるのか、をずっと問い続けています。ここに書かれた文章を読みながら、何かが見えそうな気が致しました。まだ見えてはいません。が、これからきっとその答え（私にとっての答え）を見つけることができるのではないか、と強く感じました。大変遅くなりましたが、これが私の感想でした。（Oさま）**

**＃３１　吉田先生の新著を、６年生になる娘に薦めましたところ、いじめの話のところを、とても感心しながら、読んでいました。「いじめっ子に感謝できるなんてスゴい」と。（大学教授Tさま）**

**＃３２　吉田のかつての学生さんで、現在は大学教授をしている友人から、メールを受信しました。その中で、或る若い同僚の方から、つぎのような話を聞いた、と知らせてくれました。その同僚は小学校3年生の息子さんと、夜寝る前に、この本を読んでいるのだそうです。**

**息子さんがたいそう気に入って、「現象学読もう！」というのだそうです。「ぼくは学校の勉強はあまり好きじゃないけど、現象学は好きだ」とも言ったそうです。そして、息子と読むことを通して、この本のすごさが、何倍にもふくらんでいること、また、この本を一緒に読むことによって、これまで気づかなかった息子さんの一面を発見したこと、を同僚は話してくれました。（大学教授Fさま）**

**以上、2015年6月8日（月）現在までに寄せられた読後感その他です。番号＃の欠番は、吉田が、ゼミ参加者の御覧に入れることを考慮して全体を2枚にまとめるために、省略あるいは削除したために起こったものです。そのように理解して、ご了解くださいますように。吉田章宏**